

和泊中学校いじめ防止基本方針

【いじめ防止に関する基本理念】

本校では、下記「いじめ防止対策推進法第22条」に則り、校長の統率、指揮のもと、職員の同一視を高め、集団の凝集性を強める集団維持の機能を強化させ、いじめ防止対策委員会を中心に学校全体で組織的、継続的な取り組みを行う。また、本校の実態に即した連絡体制を見直し、正確な報告や情報の共有化を図り、いじめの防止、解決、撲滅に向け、いじめの態様や原因、背景等に応じて、指導方針や指導内容を具現化し、共通理解を図りながら組織で対応する。

「いじめ防止対策推進法」(平成25年法律第71号)

第22条 学校は、当該学校におけるいじめ防止等に関する措置を実効的に行うため、当該学校の複数の教職員、心理、福祉等に関する専門的な知識を有する者その他の関係者により構成されるいじめ防止等の対策のための組織を置くものとする。

【学校教育目標】

自分の夢実現に向けて、今行動する和中生を育てる。

ナマ シランニャ イチ シュイ シリィバ ディキュン

【家庭・地域】

- ・主任児童委員
- ・民生児童委員
- ・PTA
- ・区長
- 「民生委員・児童委員等情報交換会」の開催と組織的地域の連携の強化

【いじめ防止対策委員会(生徒指導委員会)】

【いじめ調査対策委員会】【個別支援チーム部会】

目的：いじめゼロを目指し全職員体制でのぞむ
組織構成：校長・教頭・教育相談係・養護教諭・学年主任・生徒指導主任・各学年生徒指導係・スクールカウンセラーなど

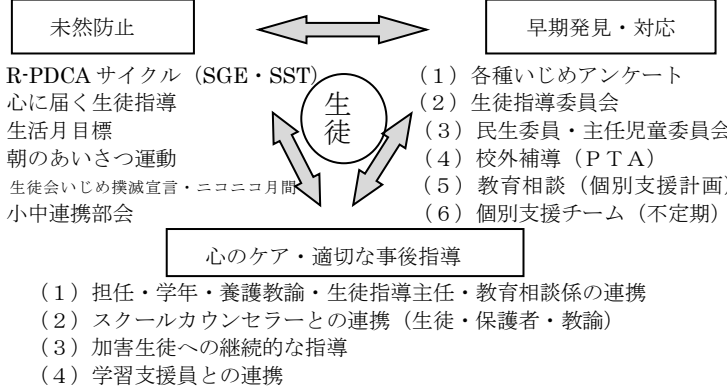
【各種関係機関】

- ・児童相談所
- ・SSW, SC
- ・教育委員会
- ・保健センター
- ・サランセンター
- ・沖永良部警察署
- ・保健福祉課
- ・町民支援課
- ・社旗福祉協議会
- 医療機関との連携
- 法務局・家庭裁判所との適切な連携

【本校におけるいじめ問題等への取組基本体制構成図】

いじめゼロを目指して

三つのスクラム・(未然防止)・(早期発見・対応)・(心のケア・適切な事後指導)



【校訓】

「自主独立」「好学愛知」「親和協力」

【目指す学校像】

- ① 生徒、職員一人一人が輝く学校
- ② 生徒が喜んで登校し満足して下校する学校
- ③ 花と笑顔が咲きほこり、環境が整っている学校

【めざす生徒像】

- ① 気持ちよいあいさつや返事ができる生徒
- ② 目標をもって学び合いができる生徒
- ③ 地域と積極的に関わり、地域に誇りをもつ生徒

いじめ防止の取組

- ① 教職員の取組
 - ・生活の記録、学級活動、各種集会、道徳の時間、部活動等の日常生活での指導
 - ・SGE・SSTを通して、魅力ある学級・学校作りの推進
- ② 生徒の取り組み
 - ・生徒会活動「いじめ撲滅宣言」「挨拶運動」「月目標」等の取り組み
- ③ 保護者の取組
 - ・PTA活動への積極的な参加、地域関係機関との連携、生徒の見守り

いじめ早期発見の取組

- ① 教職員の取り組み
 - ・各種いじめアンケートの実施、教育相談、挨拶運動、生活の記録指導、生徒指導部会
- ② 生徒の取組
 - ・保護者・教諭・スクールカウンセラーへの相談、アンケートへの記入
- ③ 保護者の取組
 - ・民生委員主任児童委員との適切な連携、ネット情報などの管理

いじめに対する措置・対応・事後指導

- ① 教職員の取組
 - ・教職員間の連携情報共有、SCや外部機関との連携、適切な指導と事後のケア
- ② 生徒の取組
 - ・保護者や学校職員・地域の方々への相談、アンケートへの記入
- ③ 保護者の取組
 - ・悩みや相談を聞く、学校職員・関係機関との連携

【生徒指導体制】

- 委員会 (週1回開催)
- 全職員の共通理解・共通実践
- 教育相談部会・生徒指導部会との連携
- 緊急事態に関しては全体職員会議・生徒指導委員会を臨時に開催し、早急に対応
- SCとの連携と、継続的な見守り
- SSW・町民支援課・児童相談所等外部機関との連携

【職員研修】

- 「配慮を要する生徒理解」での共通理解
- 指導体制の共通理解
- 「いじめ防止基本方針」の共通理解
- 人権同和教育の充実
- 【その他】
- 民生委員主任児童委員との連携

【年間計画】※R-PDCA サイクルによる活動内容の見直しは随時行う。

月	計画及び評価	実態調査	各教科・道徳・特別活動	生徒会	情報モラル関連	教育相談	職員研修
4月	年間及び1学期活動計画の検討 取組評価アンケートの作成	教育相談アンケート	「いじめ問題を考える週間の実施」	生徒集会、文化班による「いじめ」に関する作品の朗読	各教科における指導計画の確認 全体指導	家庭訪問	生徒事例研究(生徒個人、生徒指導事例、特別支援) 学校基本方針の確認
5月	実態に基づいた対応策の検討	学校楽しいとの活用	道徳(共通主題「生命尊重」)	あいさつ強化月間	P T A総会での啓発活動	事例研修 教育相談	個別支援計画 具体的対応の在り方
6月	共に生きる仲間へ感謝し、命の大切さを感じよう。		ニコニコ月間	いじめ撲滅宣言	携帯・ネット利用実態調査		家庭との連携の在り方について
7月	取組評価アンケートの実施	校内いじめアンケート	道徳(共通主題「思いやり」) 保健学習(薬物乱用防止教室)	合唱コンクールに向けて	生徒への全体指導		
8月	取組評価アンケートの実施、取組の検証、2学期の活動計画の検討				インターネット・携帯実情の研修		取組評価結果から生徒指導・特別支援教育の講話
9月	実態に基づいた対応策の検討	SNS チェック	体育大会(集団仲間づくり)	体育大会に向けて	生徒への全体指導		生徒指導事例研究
10月	行事を通して、礼儀について深く学ぼう。	校内いじめアンケート(2)	「いじめ問題を考える週間の実施」	文化祭に向けて			具体的な対応の在り方
11月	他者の話に傾聴し、自身の成長につなげよう。		文化祭・「命」について考える		インターネット・携帯指導講話	教育相談・三者面談	
12月	取組評価アンケートの実施集計、取組の検証	学校楽しいと(2)		生徒集会、文化班による「いじめ」に関する作品の朗読	生徒への全体指導		取組評価結果から
1月	元気な挨拶を心掛け、新年の目標を持ち実行していく	学校たのシート(3)			インターネットアンケート		入学説明会
2月	取組評価アンケートの実施集計、取組の検証	校内いじめアンケート(3)	道徳(共通主題「自他の尊重」)		生徒への全体指導		次年度生徒指導事例研究準備
3月	取組の検証、次年度活動計画案作成			クラスマッチへの取り組み		個別面談	小中連携学級編成

1 いじめの定義(いじめ防止対策推進法2条第1項)

「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為(インターネットを通じて行われるものを含む)であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。

※ 定義で示した4つの要素

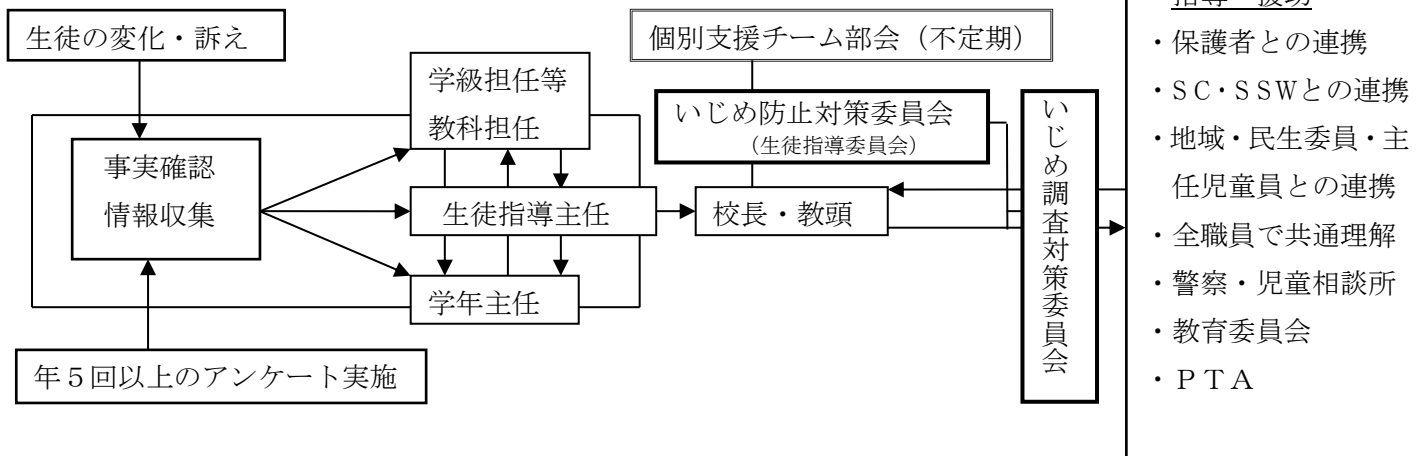
- (1) 行為をした者(A)も、行為の対象となった者(B)も児童生徒であること
- (2) AとBの間に一定の人間関係が存在すること
- (3) AがBに対して心理的又は物理的な影響を与える行為をしたこと
- (4) 当該行為の対象となったBが心身の苦痛を感じていること

※ 削除された要素

- 「学校としてその事実を確認しているもの」 → 行為をした者が不明でも、ネット上でも
- 「自分より弱い者に対して一方的に」 → けんか(双方向のいじめ)、立場が変化するいじめなど
- 「継続的に」 → 現象が単発でも
- 「深刻な苦痛」 → 客観的評価が難しい内容なので、軽率に判断しない(限定解釈をしない)

2 校内の生徒指導体制について（いじめへの具体的対応）

【いじめの緊急事態における情報入手・発見・対応の流れ・連絡体制】



3 校内におけるいじめ防止対策及び、調査・対応の組織

【いじめの未然防止】

～具体的な考え方～

いじめはどの生徒にも起こりうるという事実を踏まえ、全職員がいじめ問題の重要性を認識し、いじめがあるのではないかと問題意識を持つ。
また、全ての生徒を対象に、いじめに向かわせないための未然防止に取り組む必要がある。

- 「いじめは決して許されない」ことへの理解を促す。
- 平素から生徒と積極的に関わる場や機会を多くし、温かい人間関係を深める。
- 生徒の言動や表情の変容を素早く察知し、全職員の共通理解、共通実践に努める。
- 学校楽しいと等の調査や観察法等で得られた情報からアセスメントを行い、個や集団に適した取り組みを行う。R-PDCA（Research:実態調査・診断 Plan:企画立案→Do:実践 →Check:成果・結果評価 →Action:改善策実施）サイクルの確実な実践。
- 些細な事例でも、学級活動や生徒会活動を活用して考えさせ、生徒の自浄能力を培う。
- いじめの背景にあるストレス等の要因に着目し、その改善を図り、ストレスに適切に対処できる力を育む。
- 校外の様子については、保護者や地域住民と緊密な連携を図り、情報の入手に努める。

※ いじめ防止対策委員会（防止／週1回）の組織構成・役割・具体的な取組

いじめ防止対策委員会は生徒指導委員会を主とする。メンバーは校長・教頭・生徒指導主任・学年生徒指導係・養護教諭で構成される。その役割は、年間計画に沿い、生徒の状況等に応じた未然防止の具体策について話し合い、実施後の反省と次への計画について話し合う。週1回の生徒指導部会の中で検討される。内容によっては外部の関係機関も参加する。（SC・SSWほか）

～未然防止の具体的な取り組み～

- ・ 全校朝会、学年朝会、朝や帰りの会での講話の充実を図る。
- ・ R-PDCAサイクルの実践。SGE（構成的グループ・エンカウンター）やSST（ソーシャルスキルトレーニング）の学活や道徳、行事等での積極的活用。
- ・ いじめ防止をテーマとした学活や道徳などの授業の充実を図る。
- ・ 学校行事や普段の生活を大切にして学級の絆を高める。

- ・「いじめ防止啓発強化月間」に全校生徒でいじめ防止に向けた標語・ポスターを作成する。
- ・生徒会によるいじめ撲滅宣言を行い、啓発を図る。
- ・登校指導・校内巡視・下校指導において会話の充実を図る。
- ・生徒会役員や学級で挨拶運動を行う。

【いじめの早期発見】

～具体的な考え方～

全職員が、いじめは大人の目の付きにくい時間や場所で行われたり、大人が気づきにくく判断しにくい形で行われたりすることが多いという認識を持ち、ささいな兆候であっても、いじめではないかとの疑いをもって、早い段階からの確に関わりを持ち、いじめを隠したり軽視したりすることなく、いじめを積極的に認知することが必要である。

- 些細なことでも、生徒から職員に即時に情報が入る関係性、校風を醸成する。
- 校外の様子については、保護者や地域住民を緊密な連携を図り、情報の入手に努める。
- いじめを隠したり軽視したりすることなく積極的にいじめを認知する。

～早期発見のための具体的な取り組み～

- ・年間5回（5月・7月・9月・11月・2月）の校内いじめアンケートを実施する。
- ・「学校楽しいーと」の調査を每学期行い、いじめ早期発見につなげる。
- ・每学期ごとに定期の教育相談を実施する。
- ・ネットポリスと連携し、ネット上の監視につとめる。
- ・生活の記録を活用する。
- ・朝の会等で生徒個々の表情をきめ細やかに観察する。
- ・生徒との関わりや信頼関係を重視した登校指導・校内巡視・下校指導に努める。
- ・各挨拶運動の中で気付いた生徒の表情変化などから情報交換を行い、未然防止に努める。
- ・民生委員・主任児童委員との会の中で、学校での生徒の状況の情報交換を行い、どのような場面でもいじめがないか見守りを続ける。

※ いじめ調査対策委員会（調査・対応／随時）の組織構成・役割・具体的な取り組み

いじめ調査対策委員会は、いじめが発生した際に、調査・対応について検討する組織である。構成メンバーは上記いじめ防止対策委員会と、各学年主任・担任・各学年教育相談係を加える。さらに状況の必要性が生じた場合は、SC・SSW・児童相談所・保健福祉課等といった外部機関と連携し、事態の正確な把握と適切な対応・指導について検討した後、対応するものとする。

いじめの調査を行う場合は、

- いつ（いつ頃から）
- どこで
- 誰が
- 何を、どのように（態様）
- なぜ（人間関係の状況や学校の対応に関する課題）

を正確に把握できるように、それぞれの状況に応じた適切な質問事項を用意し、情報を正確に把握する。

～連携を行う外部機関の連絡先～	
関係機関名	電話番号
和泊町教育委員会	92-0009
沖永良部警察署	92-0110
県沖永良部事務所	92-1632
町保健福祉課	84-3517
県総合教育センター	099-294-2311
県中央児童相談所	099-264-3003
大島児童相談所	0997-53-6070

～具体的な取り組み～

- ・「学校たのシート」や「いじめアンケート」等の内容から、いじめが発生していると判断された場合、適切な調査を行う。(当事者・学級・関係生徒等からの情報収集)
- ・対応方法について検討する。
- ・いじめの状況から、外部機関との連携が必要と判断された場合、校長・教頭・生徒指導主任らが主となり、教育委員会の指導の下、情報連携と適切な組織構成を行う。
- ・保護者と連携しながら被害者保護・事実確認・情報収集・加害者指導・被害者支援・事後指導を行う。

【いじめへの対応】

- 「いじめは絶対に許さない」という職員の毅然として一貫した態度を示す。
- 被害者生徒を迅速に保護し、事実関係を正確に把握する。(複数での対応を原則とする。)
- 報告・連絡・相談を確実に実践する。いじめの再発防止を防ぐための指導法の工夫・改善に努める。

(ア) 「組織」を核とした対応

いじめを認知した場合には、迅速で組織的な対応を心がけ、「組織」を核として、情報の共有を図るとともに、いじめを受けた生徒への支援、いじめを行った生徒への指導、周囲の生徒へのケア等について、教職員の役割分担を明確にし、必要に応じて市教育委員会へ報告し、指導・助言を受ける。

(イ) いじめを受けた生徒への対応

いじめを受けた生徒の安全を直ちに確保してから、いじめを受けた生徒の側に立ち、絶対に守りとおすという姿勢を明確に伝え、共感しつつ話をよく聴き、いじめの内容や関係する生徒などの事実関係を明らかにする。

また、具体的な対応を示し、必ず解決することを伝え、注意深く見守り、安心感をもたせながら支援を行う。

必要に応じて、スクールカウンセラーや臨床心理相談員等を活用し、生徒の心のケアを図る。

(ウ) いじめを行った生徒への対応

いじめを行った生徒からも、十分に話を聴き、いじめの内容や関係する生徒などの事実関係を明らかにする。その後、いじめは人間の生き方として絶対に許されない、卑怯な行為であることを理解させて、すぐにいじめをやめさせるとともに、傷ついた相手の気持ちを理解させ、心から謝罪できるように指導する。さらに、学校の「組織」が中心となって組織的・継続的に見守り、指導を徹底する。生徒の発達上の悩みや葛藤などについても十分に配慮し、立ち直りを支援していく。そのために必要に応じて、スクールカウンセラーや臨床心理相談員等を活用し、生徒の心のケアを図る。

(エ) いじめを通報した生徒等への対応

学校は、通報した生徒のプライバシーが完全に守られるよう、十分に配慮する。また、勇気をもって教職員にいじめを通報した生徒を十分称賛するとともに、守り通すことをはっきり伝え、いじめを通報した生徒の安全を確保するための取組を徹底する。

(オ) いじめを行った集団及び周囲の生徒への対応

いじめている生徒のまわりで、一緒になって見ていることなどは、いじめ行為と同じであることを理解させる。さらに、いじめられている生徒の気持ちになって考えると、何もしないでいることは、いじめを行ったのと同じように思われることに気付かせる。

また、いじめは、他人事ではなく、自分の問題として考えさせるとともに、いじめを見かけたら、すぐに知らせる勇気をもたせる指導を行う。

(カ) 保護者への対応

いじめを受けた生徒の保護者に対しては、家庭訪問し、丁寧に状況を説明するとともに、学校としての取組方針を伝え、誠実に対応する。

いじめを行った生徒の保護者に対しても、家庭訪問し、丁寧に状況を説明するとともに、学校としての指導方針を伝え、協力を求める。

学校は、双方の保護者ともに連絡を密にし、謝罪の場を設けるなど、誠意を尽くした対応を続けるとともに、保護者の心のケアを図るため、必要に応じて、スクールカウンセラーや臨床心理相談員等を活用する。

(キ) 地域や家庭、関係機関等への対応

学校は、学校運営協議会、PTA等地域の関係団体等と、いじめ問題について協議する機会を設けたりするなど、いじめ問題に対して地域や家庭と連携した対策を日頃から推進することが必要である。また、いじめを発見した場合は、必要に応じて協力を依頼することも考えられる。

さらに、いじめ問題における指導において、十分な効果を上げることが困難な場合などには、児童相談所や警察などの関係機関との適切な連携が必要である。

4 重視している未然防止の取り組み

未然防止に関わる取り組み内容の一覧

未然防止の取り組み	期 間	場 所	担 当	具体的な内容
教育相談	5月 11月	各教室 特別教室	全体・学年教育相談係 全体生徒指導係	・教育相談アンケートの実施（教育相談係） ・いじめアンケート（生徒指導係） ・学校楽しいーと（生徒指導係）
R-PDCAサイクル	通年	各教室（学級） 体育館（学年） 他	生徒指導係 担任・学年担当	・学校楽しいーとによるアセスメント ・SGEの実施（月1回：道徳・学活で） ・SSTの実施（短学活や学活・行事等で）
いじめ撲滅宣言	4月	体育館	生徒会係 生徒指導係	・生徒の心に訴えるような資料などをもとにいじめ撲滅宣言を全生徒で行う。
いじめ防止啓発強調下巻（ニコニコ月間）	5月～6月	各教室 校内	生徒指導係 各教科 生徒会係 道徳科・特活係 国語科・美術科	・道徳・学級活動その他教科も含め、校内の教育活動全般においていじめについて考える場をつくる。 ・いじめ防止に向けた取り組みを全校で行う。 ・ポスター作りを通じて、啓発活動を行う。 ・標語作りを通じて、啓発活動を行う
生活月目標	通年	校内 学校外地域	生徒指導係 生徒会生活部 各専門部 学級総務	・生活部を中心に生活月目標を設定。100%達成を目指して生徒全員で取り組む。 ・生活部長・副部長が集まり、月目標の確認と具体策について話し合い、各学級に伝える。

(1) R-PDCAサイクルの実践

R (Research) …学校楽しいーとや観察法から、学年・学級・個の状態をアセスメントする。

P (Plan) …支援策の立案。SGE・SSTで必要な項目をリストアップ。個別支援計画の作成。

D (Do) …授業・相談活動・支援の実施。シェアリングや自己評価等で変容の確認。

C (Check) …変容の積み重ね（観察）や学校楽しいーとで変容を確認。

A (Act) …支援策の再立案。必要な場合は年間計画を変更する。

以上のサイクルで、いじめが起こらない集団の育成を図る。

(2) 生徒の「自立・自律」を促す開発的生徒指導

本校では、学級活動・生徒会活動・学校行事などにおいて、「出番・役割・承認」のサイクルで、生徒の自己成就感・肯定感を味わう活動となるよう企画・運営・支援を行っている。

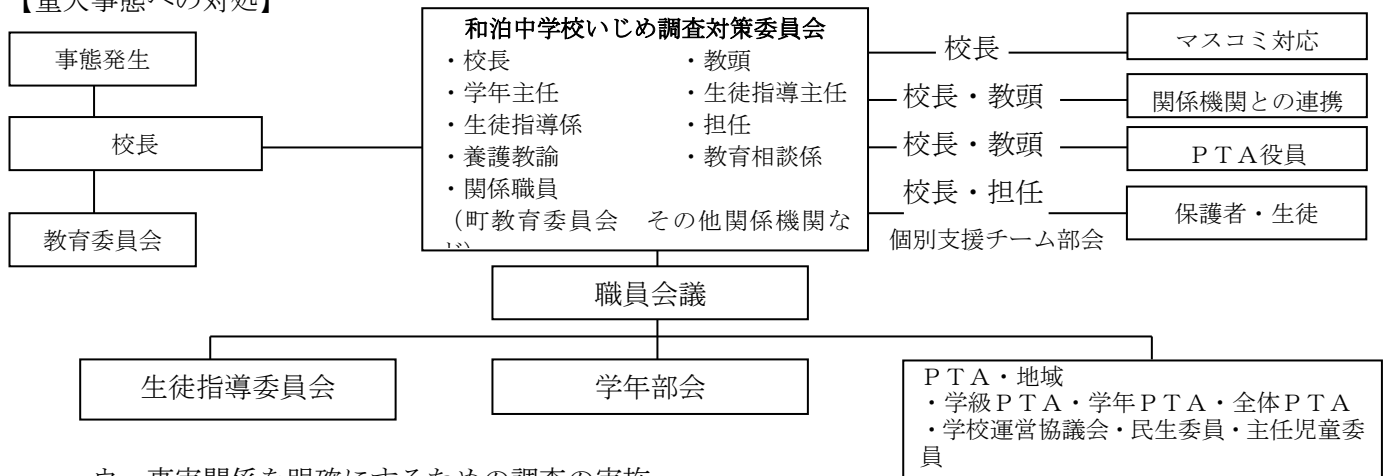
ア 役割

- ・発生した重大事態に関する調査
- ・調査によって明らかになった事実関係について、いじめを受けた児童生徒・保護者に対して適時・適切な方法での情報提供・説明
- ・町教育委員会への調査結果報告
- ・調査結果の説明について、いじめを受けた児童生徒またはその保護者が希望する場合は、所見をまとめた文書を添えて、調査結果を報告

イ 構成

当該担任・学年主任を含め、公平性・中立性を確保するようにする。必要に応じて、外部機関と連携し、専門的なアドバイスもらうため、出席を依頼することもある。また、該当生徒等、重大な影響を受けている生徒に関しては別途「個別支援チーム部会」を設置し、対応について検討する。あわせて、教育委員会の助言・指導にもとづいて構成を決定する。

【重大事態への対処】



ウ 事実関係を明確にするための調査の実施

以下のような事実関係を、可能な限り網羅的に調査する。この際、因果関係の特定を急ぐべきではなく、関係機関等との情報連携を図りながら、客観的な事実関係を速やかに調査する。

- いつ（いつ頃から） ○ どこで ○ 誰が ○ 何を、どのように（態様）
- なぜ（人間関係の状況や学校の対応に関する課題）

- いじめられた生徒からの聞き取りが可能な場合聞き取り調査を中心に実施するなど、調査については十分な配慮を行い、インターネット上でのプライベートな内容の情報拡散・風評被害等にも配慮する。
 - ・いじめられた生徒の学校復帰を最優先とした調査を行う。
 - ・情報提供生徒の安全の確保を確実にを行う。
 - ・県教育委員会が実施する「学校ネットパトロール事業」を活用した緊急監視を実施する。
- いじめられた生徒からの聞き取りが不可能な場合（いじめられた生徒が入院又は意識不明等の病状や死亡した場合）、当該生徒の保護者の要望意見を十分に聴取した上で、今後の調査について協議する。

エ その他留意事項

【心のケア】

- いじめられた生徒及び保護者だけではなく、調査自体が生徒に与える心的負担を考慮し、調査の

実施と平行して、市教育委員会に臨床心理相談員やスクールカウンセラーを依頼する。

- 継続して心のケアが必要な場合には、被害者生徒支援として、「個別支援チーム部会」を臨時に構成し、情報連携と具体的な支援策の検討を行い、実施する。

【「個別支援チーム部会」職員構成】

開 催：随時（週1回開催を原則）

構成員：校長・教頭・生徒指導主任・教育相談係・学年主任・担任・その他部活動顧問や関わりのある職員及び、外部機関（SC・SSW・主任児童委員・民生委員・教育委員会）

- 町教育委員会、関係機関と連携を図りながら、養護教諭を中心に当該生徒・保護者の心のケアを行う。
- 関係職員の心のケアにも十分注意する。

【調査に当たっての説明等】

- いじめられた生徒及び保護者に対して調査方法や調査内容について十分説明し、合意を得ておく。
- 調査経過についても適時・適切な形で報告する。

【調査対象の児童生徒及びその保護者に対して】

- 調査によって得られた結果については、分析・整理した上で、いじめられた児童及びその保護者に情報提供する旨を十分説明し、承諾を得ておく。

【報道取材等への対応】

- プライバシーへの配慮を十分に行い、事実に基づいた、正確で一貫した情報を提供するために、窓口を校長もしくは教頭とし、町教育委員会と連携をとりながら対応する。